

合同特別企画: パネルディスカッション「“音”研究の未来」

後藤 真孝 産業技術総合研究所
亀岡 弘和 NTTコミュニケーション科学基礎研究所
北原 鉄朗 関西学院大学 / JST CREST CrestMuseプロジェクト
平賀 譲 筑波大学
緒方 淳 産業技術総合研究所
戸田 智基 奈良先端科学技術大学院大学
武田 一哉 名古屋大学

概要 音楽情報科学研究会 (SIGMUS) と音声言語情報処理研究会 (SIGSLP) の共催による初めての研究会が今回開かれることとなり、この機会に、「両コミュニティ間の融和」を目的としたパネルディスカッションを特別企画として行うことになった。このパネルディスカッションでは、司会者と6人のパネリストを中心に、(1) 各コミュニティの内外からのアピランス、(2) コミュニティの間の共通点や違い、(3) 共通の目標になりうる課題について議論する。

Special Joint Event: Panel Discussion on General Issues for Future Research on “Sounds”

Masataka Goto National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST)
Hirokazu Kameoka NTT Communication Science Laboratories
Tetsuro Kitahara Kwansai Gakuin University / CrestMuse Project, CREST, JST
Yuzuru Hiraga University of Tsukuba
Jun Ogata National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST)
Tomoki Toda Nara Institute of Science and Technology
Kazuya Takeda Nagoya University

Abstract On the occasion of the first joint meeting between the Special Interest Group on MUSIC and computer (SIGMUS) and the Special Interest Group of Spoken Language Processing (SIGSLP), we are organizing a special panel discussion taking advantage of this fabulous opportunity to harmonize these two research groups. In the panel discussion, a moderator and six panelists will exchange their opinions and thoughts, possibly with the audience, concerning the issues of (1) an impression and appearance of each research group from the insiders'/outsiders' point of view, (2) differences and similarities between these groups, and (3) common research goals to be shared by these groups.

はじめに

情報処理学会音楽情報科学研究会 (SIGMUS) と同音声言語情報処理研究会 (SIGSLP) が共催する今回の研究会は、両コミュニティの研究者が集うとても貴重な機会であり、それをより一層生かすためにパネルディスカッションを企画した。SIGMUS と SIGSLP は、それぞれ「音楽」と「音声」を対象とした多様な研究を議論する場であるが、どちらも「音」を扱っているにも関わらず、通常

は別々の場で議論をしている。実際に、「音楽」と「音声」にはそれぞれ固有の現象があり、違う点も多いが、いずれも人間が生成・認識・理解・学習し、他者に表現・伝達する音メディアである等、共通点もある。また、技術的にも、両者に共通して有効なアイデアや手法が生み出されてきている。

そこで本パネルディスカッションでは、SIGMUS と SIGSLP の互いの研究目的、問題意識、アプローチを改めて共有し、両コミュニティの発展と融和を促していく

ことを目指して、以下の7名がフロアも交えて議論する。

司会:

後藤 真孝 (SIGMUS 主査 [2007 年度~])

パネリスト:

【音楽側】

亀岡 弘和 (2006 年度博士学位取得)

北原 鉄朗 (2006 年度博士学位取得)

平賀 謙 (SIGMUS 元主査 [1997 ~ 1998 年度])

【音声側】

緒方 淳 (2002 年度博士学位取得)

戸田 智基 (2002 年度博士学位取得)

武田 一哉 (SIGSLP 主査 [2006 年度~])

パネリストは6名で、音楽と音声の両分野で研究している場合でも、便宜上3名ずつ音楽側と音声側に分けた。3名は、上から順に若手2名、シニア1名で構成されている。まず、SIGMUSを活躍の拠点の1つとしてきた音楽側若手2名として、亀岡弘和と北原鉄朗が議論する。二人は音楽音響信号理解を中心に研究してきており、その研究内容も音声言語情報処理分野に関連がある。音声側若手2名としては、音声認識・インタフェースを専門とする緒方淳と、音声合成・統計的音声信号処理を専門とする戸田智基が議論する。さらに、それぞれのコミュニティでの活動経験が長いシニアパネリストとして、1997~1998年度にSIGMUS主査を務めた平賀謙と、2006年度からSIGSLP主査を務めている武田一哉が議論する。そして最後に、2007年度からSIGMUS主査を務めており、SIGSLP運営委員でもある後藤真孝が、本企画の発案者として、司会者を務める。

本パネルディスカッションは、以下の3部から構成される。

第1部: もし私が音声/音楽研究者だったら

あるコミュニティの研究アクティビティをその外部から見ると、「なぜこういう研究課題には取り組まないのか」、「なぜこの手の問題に対してはこういうアプローチがとられるのが主流なのか」といった素朴な疑問をもつことがある。実は、こうした素朴な疑問に対する答えには、示唆に富んだ重要な事実や本質が含まれていることが多い。そこで第1部では、さまざまな素朴な疑問を手がかりにSIGMUSとSIGSLPのコミュニティに介在する問題の本質を解明することを目的とし、各パネリストが、もしも(音楽情報処理研究者の)自分が音声言語情報処理研究者だったらどんな研究をしたいか、もしも(音声言語情報処理研究者の)自分が音楽情報処理研究者だったらど

んな研究をしたいかを提示し合い、それをもとに議論を進める。それを通じて、上述のような他コミュニティに対して抱く素朴な疑問を解消するだけでなく、コミュニティ外ならではの斬新なアイデアが生まれる可能性も期待できる。

第2部: コミュニティQ&A

SIGMUSとSIGSLPは、それぞれの歴史や設立経緯などの違いから、同じ音を扱ってはいても、さまざまな文化の違いがある。そこで第2部では、研究内容だけでなく、研究コミュニティの雰囲気や特有な風習等も含む、コミュニティ間の違いを浮き彫りにすることを目的として、各パネリストにYes/No質問を提示する。その趣旨は、互いのコミュニティから見習うべき良い点を発見することであり、延いては両研究会がさらに発展していくためのヒントを見出すことである。

第3部: “音” 研究のロードマップ

第3部では、「“音” 研究」という未来の研究プロジェクトを想定し、音楽、音声という括りを越えた“音”の生成・認識・理解・学習への統一的アプローチが果たして考えられるのか、それに向けてどのような課題に取り組みばよいのかを皆で構想し、共同で仮の大きなロードマップを作る目標へ向けて議論する。互いのコミュニティにおいてこれまで培ったノウハウや研究成果が、この大きなロードマップのどの要素に当てはまるのかを理解し、各々の研究の包括的な位置づけを明確にすることがここでの目的である。

おわりに

本パネルディスカッションの目的は、SIGMUSとSIGSLPが相互の理解を深め、両コミュニティの今後ますますの融和を図ることである。活発な議論を通じて、両研究会ならびに「“音” 研究分野」の今後の発展と飛躍の一助となることを願っている。

(文責: 亀岡弘和, 北原鉄朗)

謝 辞

本パネルディスカッションの企画に際して様々なご意見、ご提案を頂いた平田圭二氏(NTT CS 基礎研)に感謝する。